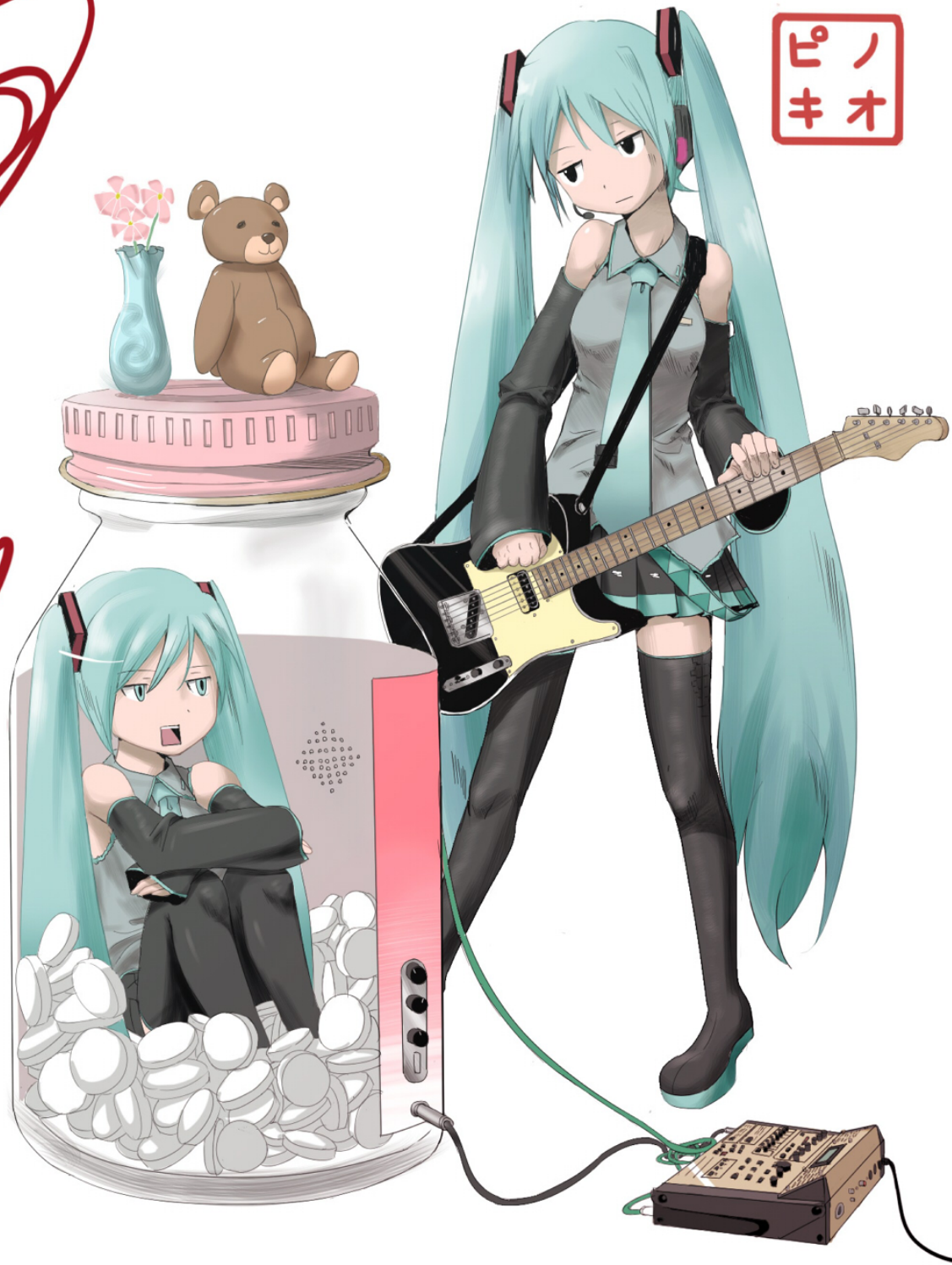


ピノ
キオ



ハガノビール



1

あかんぼ

温もった水に包まれて 二つの鼓動を聞いた
気づけば ほら産声あげて 笑顔に囲まれ 泣いた
生まれる前の無意識が うまく思い出せずに
生まれた後の自意識が怖くて 泣いてんのかな

わたしがしている赤色は 君の青色なのかも
私にとっての「あかんぼ」が 君は「あおんぼ」なのかも
やがて「人生」を植え付けられ 変な疑問にまみれ
天才科学者？ シリアルキラー？ 一体どうなっちゃうかな

これから 笑い疲れ眠ったり ぐしゃぐしゃの涙流したり
下手くそな歌を歌ったり するんだろな
あとは ヘンテコな絵を描いてみたり
バーチャルの部屋で暮らしたり
ちょっと孤独になってみたりするんだろな

はたまた 無言で怒ったり 無表情で喜んだり
勉強を敵と思ったり はしやいで骨を折ったり
生き延びていくそのために たやすく裏切りあったり
奇麗事に唾を吐いたり 寄り辺なく愛しあったり
するんだろな

小さな手足に課せられたハンデもチートも不条理も
いつか大きな手足になり すべて包みこめないけど
意識を乗りこなしてきたら 途端に無意識が怖くなり
長く短いこの道を 四つん這いで歩み出した

みんな 昔 あかんぼ
わたし 今も あかんぼだよ
誰も彼も 昔 あかんぼ
わたし 機械の あかんぼだよ
みんな 昔 あかんぼ
わたし 今も あかんぼだよ



2

ネガポジ

闇の中で息をしてた 背中丸め 気づかれぬように
輝き飽きた月明りが すべてを見透かしてる
傷だらけに なりすぎて 痛みがもうわからない
秒単位で塗りかえられてく 価値が襲いかかる

優しいふりはもうしたくないはずなのに
その“ふり”も 一つの自分 否定できないから

かけがえのない ひとつの光 時に見失うけど
探すことを止めなければ きっとまた見つかるさ
ぶ厚い壁 突き破って 君を迎えに行こう
深夜二時に小さな奇跡 もう一度信じてたい

必要以上に怯えて 両手両足が震えてる
勇気を出して放った声は 小さくて届かない
怒りを表に出せずに「しょうがない。」と誤魔化して
弱き立場を重んじてるのは 生まれつきの癖

心の奥見せぬように何重も鍵かけて
眠りかけた瞬間に 誰かの呼ぶ声をする

かけがえのない ひとつの光 時に見失うけど
ネガとポジの中間地点に いつでも潜んでいる
ぶ厚い壁 突き破って 君を迎えに行こう
深夜二時に小さな奇跡 もう一度信じてたい
小さな声 響きわたれ 世界中を包みこめ
夢、妄想抱きながら また歩き始める



3 宇宙みかん

いつまでこうしているつもりなんだ
どうにかして 脱出を図りたがった
それはアルカトラズをゆうに超えた
夢の中でも あと少しだった

また目が覚めて 重力にうんざり
寝癖頭の私を 見下してくる 太陽
変わり映えない日々 デジャブも飽き飽きで
自然破壊よりも先に私が壊れそうよ

このまま地球にいるなんてバカみたい

もう いっそ 宇宙で暮らそうよ
宇宙こたつに入って 宇宙みかん食べてさ
幾千の星たちと肩を並べたら
呼吸も忘れるほどにふわふわと浮いていたいんだ

だけど私はただの人間だった
ちっぽけで頭も良くはなかった
悩みもよくある話ばっか
友達や家族が全てだった

S F映画の主人公に憧れて
モノクロの現実には少しだけ色が付く
いつか宇宙からの招待状が届いて
連れて行ってくれることを 全信無疑 願うけど

私の住んでるこの星じゃ ファンタジーみたい

宇宙で暮らすにあたっての
太陽系マニュアル
火星は寒いよ
木星でかいよ
金星ガスいよ
水星は意外と熱いよ
土星はわかあぶないよ
太陽は調子に乗ってるよ
月は横顔冷たいよ
冥王星はどこへいったのだろう
地球は溜息でいっぱいだ



さあ みんな 宇宙で暮らそうよ
宇宙ジュースで乾杯して 宇宙肉を食らうんだ
ああ 宇宙へ引越しをするその前に
宇宙ハボキをかけて まずデブリをけちらすんだ

でも きっと 宇宙で暮らし慣れたら
無重力にも飽きて 地球が恋しくなるかな？
遠い地球の蒼白く光る輝きに
つまらなかった毎日を思い出して涙するんだ

やっぱり私はただの人間だった
宇宙に憧れる地球人だった
逃避は束の間の休息だった
これからも地球で生きる そうなんだ



4

玉葱

涙は 全部が たまねぎのせい
笑顔は ヤバイきのこのせい
気分が悪いのは 毒電波のせい
なんでも何かのせいだね

ゴキブリ嫌いは遺伝子のせい
お化け嫌いは生きてるせい
世界が終わるのは みんなのせいで
私のせいじゃないんだよ

はじめは そんな決めつけなんて
あやふやなものだった
だけど 正しいと思いこんでしまったんだ

いじめのきっかけはお笑いのせい
犯罪はネットやゲームのせい
頭が悪いのはマンガのせいで
なんでも何かのせいだね

なんとなく 仲間はずれになるのは
正しすぎる決め付けのせい？
涙が ふと零れ落ちたけれど
これもたまねぎのせいかな

ひとりぼっちになってしまったのは
意地悪な神様のせい
そんな 私がもし どこかに消えたら
君は涙を流すかな
それは ほんとの涙かな
らるるらるるらるらるらるら
もしや たまねぎの涙かな



5 カケラ

四角に足りない丸みのような
丸にたりない でっぱりのような
夢に足りない 現実のような
日々にたりない 想像力のような

例えば そんなカケラが散らばった
星空よりも粉々に

私に足りない 君のような
君に足りない 私のような
少しずつ隙間を
埋めてしまいたいのに
いつまでも埋まりそうにないんだ
時間が立つたびに
ぽっかり穴が広がる
だって今はまだ
君は私のカケラ

言葉じゃ足りない 本音のような
感情に足りない ロジックのような
伝わらないのが 伝わりすぎて
二人の間に 冷たさは満ちた

完璧なものなどない こんな世界で
多くを委ねてしまうのは
何故なんだろうな

私に足りない 君のような
君に足りない 私のような
少しずつ隙間を
埋めてしまいたいのに
どこまでも広がっていくんだ
そして少しずつ
わかってきたこと
私は私で 君は君で

私に足りない 私があって
君に足りない 君もきつとあって
代わりはいるけど 他にいないように
安い言葉で騙しあわぬように
1つになれずに 0にならぬように

やがて気づいたら
私が君のカケラ
私が君のカケラ

そんなふうになればいいな
なんて無責任な話
だけだ
そんなふうになればよかったな





未来 未来 あるところに
一人の人間がおったとさ

6

「未来」の私は どんどん記憶を失っていった
自分が自分であることさえも怪しくなった
それでも はっきりと覚えている何かがあった
それは懐かしい香りのするものだったんだ

C

ここは どうやら未来 みたい
よくわからないけど
ただ、ただ 未来みたい

O

C

O

a

「今現在」の私は思い出を脚色し
未来には 希望や絶望、その他を馳せた
そして少しずつ色んなことが解ってきて
だんだんだんだん
寂しい気持ちになっていったんだ

大好きなあなたの優しさのすぐ側で
贅沢な心は冷たくなっていったんだ

「過去」の私は好きなものが多かった
目に映るものすべてが新鮮だったんだ
お腹がよじれる程良く笑ったな
大好きなあなたのつくる それが
とっても あったかかったな

「過去」も「今」も 消えない 光
なのに いつのまにか
ぼやけてしまった光

「未来」の私は色んなもの 失っていた
取り替えしのつかないことさえ
忘れかけていた
それでも はっきりと覚えている何かがあった
それは懐かしい香りのするものだった

その懐かしい香りは 皺の増えた顔を
さらに 皺くちやにして
ほんの一瞬だけ ほんの一瞬だけ
心に灯りを ともすのだった

ここは どうやら未来 みたい
よくわからないけど
ただ、ただ 未来 みたい
かつては 遠かった未来 みたい
わずかに残った「私」と「未来」 みたい



7 ひとりの帰り道

色々あったな 何色かわからないほど
とりあえず今は 夕焼けのオレンジ色
親友の君は 風邪で休みだから
ひとりの帰り道

黙ってつま先を見て 小石蹴って
ドブに落としただけ 無表情
道端に見つけた 四つ葉のクローバーも
ひとりじゃそんなに喜べない

いつもの帰り道なのに遠い道
どこでもドアがあったらな
そんな絵空事をいわずに雲に浮かべてる
そうだ家に帰る前に
56点の答案とパンを届けなくちゃ
君の嫌いなレーズンパン

もくもくと考える 夜ごはん 何かとか
宿題のこととか 好きな人の苦笑いとか
ここまで踏んづけた 蟻は何匹いただとか
ぜんぶサトラレてる妄想したりとか

前の邪魔な横一列の集団を
追い抜く勇気なくて遠回り
この狭い路地裏は
お化けが出そうで怖いな
ふたりなら全然怖くないのに

いつもの帰り道なのに違う道
君の熱は下がったかな
やっと君の家の屋根が見えてきたんだ
インターホンを押して
ダッシュはしないで
おばさんが来るのを待っている間
答案の角を折つといた

明日の朝には 元気な君に会えるね
インフルエンザじゃなくて本当に良かったよ
この後あと少し
ひとりぼっちで歩くけど
もういつもの帰り道

レーズンパンはちゃんと食べてね



8

キラキラ
キラキラ
★カプセル

めまいだ ピカピカ やっと まともになれる
みんなの前では 目をふせてばかりいた
何故そこで笑うの 何故そこで怒るの
何故そこで泣くの 全然ピンとこなかった

そして浮世離れした 甘葛絡まる研究所の
醜い鼻の博士から 2000円札を5000枚揃えて買った
玉虫色に輝く 小さなカプセル

キラキラ☆カプセル 夢にまでみた カプセル
こいつを飲み込めば みんなの仲間になれる
キラキラ 輝く 新世界と手をつなぎあうために
寂しさのしっぽ切って まともな自分を作り上げるために

耳鳴り ギザギザ やっと まともになれる
私が喋り出すと みんな必ず黙った
みんなが思う「正しい」は それはそれは正しく
私の思う「正しい」は見えて見ぬふりされる

用法は口から飲み込まず 心の隙間から飲みこみ
用量は自分の気がすむまで
やっとな平気な顔をしている理由がわかる
一度わかったら もう二度と戻れないけれど

キラキラ☆カプセル 通販じゃ買えない カプセル
不安の雲は霧散し 震えがやっとおさまった
キラキラ 瞳も玉虫色に輝きはじめる
幻覚が見えそうで見えない ごく健全な治療薬

キラ キラ キラ キラ

カプセルを飲み込んでから見た世界は少し狭くなって
不都合な現実とは 右から左へ通り過ぎていった
願ったりの偏見なら疑いもせず 簡単に飲み込んで
無自覚な差別の意識に悩まずに
やっとなわたしはまともになった

そしてまともな みんなとやっとな溶け込んで
深い孤独の病を完治させた
だけど 誰彼 よく見ると 玉虫色の瞳だ
みんな全員 博士のカプセルを買っていた
綺麗でキラキラのカプセルを買っていた



9

幸福の結末を嫌っていたのは
紙の上を滑る ペンの音が聞こえるから
不幸の結末を愛したのは
そこに真実がある気になれるから

それだけ たった それだけ

H

A

P

P

Y

おいしい物を食べて
くだらないことで笑って
何かを好きになって
でも 悲しい事実が愛おしいのは
何故なんだろう

ハッピーエンドの裏側じゃ
すべてを消してしまいたい

前向きになることを 良しとしないのは
「馬鹿みたい」って 一つ覚えをしてたから
後ろ向きになることを 良しとしたのは
前向きな人の存在があったから

E

N

D

ファッション ニヒリスト
ファッション ヒューマニスト
似た者同士で罵りあった
奇麗事にも 天邪鬼にも
マニュアル通りで
誰もが飽き飽きだったんだ

B

A

D

バッドエンドの裏側じゃ
ほんの少しだけ救われたい

E

N

D

ハッピーエンドのその瞬間に
バッドエンドは見過ごされて
バッドエンドのその瞬間に
ハッピーエンドは凝視されていた

ハッピーエンドの裏側じゃ
すべてを消してしまいたい
バッドエンドの裏側じゃ
ほんの少しだけ救われたい





10

F
i
r
e
w
o
r
k
s

夏が始まり あえてどこも行かずに
設定温度17度の部屋で 寝っころがってアイス食ってた
タオルケットにくるまったままぼんやり
日差しも入らぬ閉めきった部屋で 妄想の海に漬かっていると
携帯電話がどこかで鳴ってる 手にとって見た 友達の誘い
今夜は花火大会があるらしい 灼熱地獄に飛び出してゆく
光化学スモッグ、排気ガスを かきわけて原付乗って走る
日焼けのしていない顔がゆがむ 遠くのアスファルトみたいに

ああ どうせまた モノクロ気味な夏の日を
賞味期限の切れた 思い出で味付けしている
現実よりも長い夢から覚めた時
また新しい朝日が 夜空を完食した後だった

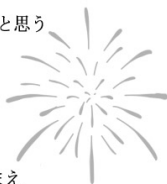
久しぶりに歩くと 息も切れて足も棒 汗だくで
人ごみを避けながら イヤホンで耳ふさいで 伏し目がち
待ち合わせ場所に先についたけど 友達はずっと遅れると言う
読みかけの本の続きを読もうかな 街に浮いた時間潰すために
青かった空が朱色に変わる 夏の日も折り返しまできてる
都会の喧騒が邪魔をしてくる なんでもこんなにも

少年のような純粋な気持ちよみがえる
夜空に咲き乱れた 巨大な光に包まれて
迷いも嘘も 絶えず拭えぬ猜疑心も
炸裂音とともに 今だけは消え去ってしまうんだ

つかの間の幸せでも 間違った喜びでも
気まぐれの優しさでも 悔しいな 嬉しいと思う

夏の終わりに 後悔するその前に

少年のような純粋な気持ちよみがえる
夜空に咲き乱れた 巨大な光に包まれて
迷いも嘘も 絶えず拭えぬ猜疑心も
炸裂音とともに 今だけは消え去ってしまえ
ああ 今日みたいな カラフル色の夏の日も
年月に毒されて いつかは色褪せてしまうけど
多くの人が 足を止め 花火を見る
それぞれの心根に それぞれの輝きが映るんだ



11

「
なん
て
ね。」

裸足で駆けて 遊んで 転んで 怪我をして
ちょっと血が出ちゃった
それでも 笑っていたんだ

今では 狭苦しい スーツを纏った戦争で
心ばかり怪我しちゃって
なんか つまらないんだ

この地球の隅っこから隅っこまで
見てきた風な人ばかりな
街の外側で呼んでいる

どうせ絆創膏が増えるのなら
世界中の色々な場所まで
ピラミッドの上 オーロラの下
アマゾンの奥地 飛んでって
転がって 傷つきたい
なんてね。

他人も自分も おっかなびっくり ぶつかって
変な傷が増えた リストバンドの種類も
こんな狭い世界じゃ 伝わるわけもなかった
うすっぺらのコミュニケーション
予定調和 負の連鎖

この宇宙の隅っこから隅っこまで
わかった風な人ばかりな
惑星の外側で呼んでいる

どうせ絆創膏が増えるのなら
世界中の色々な人々と
白 黒 黄色 宇宙の銀色
言葉を超えて 触れあって 通じ合って
キスしたい

どうせ絆創膏が増えるのなら
世界中の色々な場所まで
成層圏の上 あいつの家の庭
流水の景色 静かの海

どうせ 生きる意味なんてないなら
悩んで学んで 笑って泣きたい
細胞の奥の奥 銀河の果ての果て
くりかえしの歴史
陰謀も過ちも 知ってみたい
どうせ 変な傷跡が残るのなら
色々なカタチの傷跡を 刻んでみたい
なんてね。



12

e
i
g
h
th
u
n
d
r
e
d

今から言うことは 全部が本当のことだよ
砂糖はしょっぱくて 塩はとっても甘い
冬は汗ばむ季節で 夏は凍える季節で
くじらは星空泳ぎ 消えない虹のアーチを潜る

君の事は嫌い ずっと一緒にいたくない
一瞬で忘れたし 思い出になんかならない

神様は存在するし 65億の夢は叶うし
いつか争いごとはなくなるし
みんな永遠に笑いあえるし
そして 嫌いな君は今でも
元気で息をしている 息をしている

今から言うことも 全部が本当のことだよ
命に終わりはなくて 過去は容易く変えられる

君の事は嫌い 君はぐうとお腹を鳴らし
眠くなったら また眠り 眠りあきたら目を覚ます

西からお日様はのぼり うさぎはお月様の上に
幸せにきつと終わりはないし
みんながみんないい人だし
そして 嫌いな君は今でも 逢いたい時に逢えるし
逢いたい時 逢えるし

この先 言うことは 全部がウソっぽくちから
聞き流してほしい 聞き流してほしい

神様は存在しない ほとんどの夢など潰える
まだまだ争いごとは続く
みんな終わりがくこと気づいている
君のことが大好きです ずっと隣にいたかった
煙になる前の君と ウソツキの私で
ウソツキの私で

この先言うことはウソかホントかわからない
この素晴らしい世界で
君の分も生きたい 君の分も生きたい



13 ハナウタ

あなたがいるから 通学路の足取りも軽く
嬉しそうなハナウタはふふふ
ださすぎて笑った

喜ぶこと 悲しむこと 利き手の方向
君と合わせていたんだ
UF0とか超常現象を
信じるっていうなら私も信じるし
だけどまだ この想いは伝えられてない

ぐるぐると衛星に乗り
奇跡を待って何もせずにいるの
すると 放課後 あの人が前からやってきて
すれ違いざま カバンぶつかり 目と目が合った

ふんふんふん…
ハナウタで誤魔化して 赤面の逃避行
「ちょっと待て…」の音が聞こえたけど
曲がり角へ消える
寂しそうなハナウタはふふふ
ださすぎて笑った

今日を振り返って ジタバタして
ちょっと鬱になって 読書もままならないんだ
携帯に着信 知らない番号だ
「もしもし 落し物。」 あの人のがする
うわずる声
どうやら学生証を落としたらしい

緊張を悟られぬように
つとめて冷静に「わざわざ、ありがとね。」
すると あの人が こんな話題を持ち出してきた

「あの曲なら俺も知ってるよ、
確かこんな感じのメロディ。」

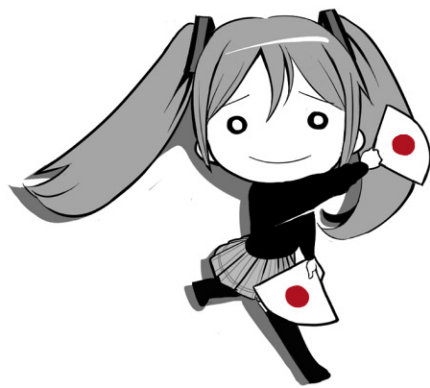
ふんふんふん…
何かが動き出した そんな気がしたんだ
ふんふんふん…
思わずユニゾンで歌う
嬉しそうなハナウタはふふふ
くさすぎて…

あなたがいるから 私の価値観は揺れる
人生観も善悪の意味も 劇的に塗り換わる
デッサンのつたない キュビズムな心の内に
溶けていったハナウタはふふふ
嬉しそうなハナウタはふふふ
ふたりして笑った





あかんぼ	●
ネガポジ	● ●
宇宙みかん	● ● ●
玉葱	● ● ● ●
カケラ	● ● ● ● ●
Cocoa	● ● ● ● ● ●
ひとりの帰り道	● ● ● ● ● ● ●
キラキラ★カプセル	● ● ● ● ● ● ● ●
HAPPY END BAD END	● ● ● ● ● ● ● ● ●
Fireworks	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
「なんてね。」	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
eight hundred	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
ハナウタ	● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●



ハチガノビール

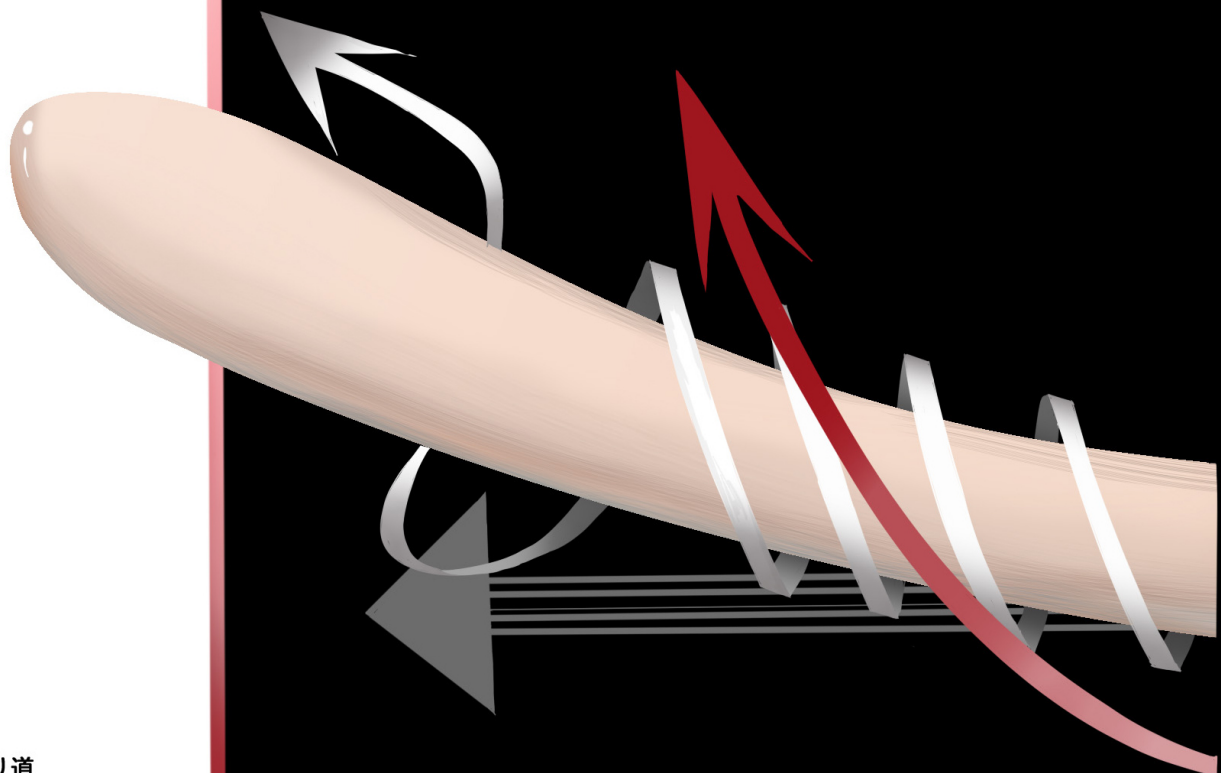
作詞・作曲・絵 / ピノキオP



ハ+ガノビール

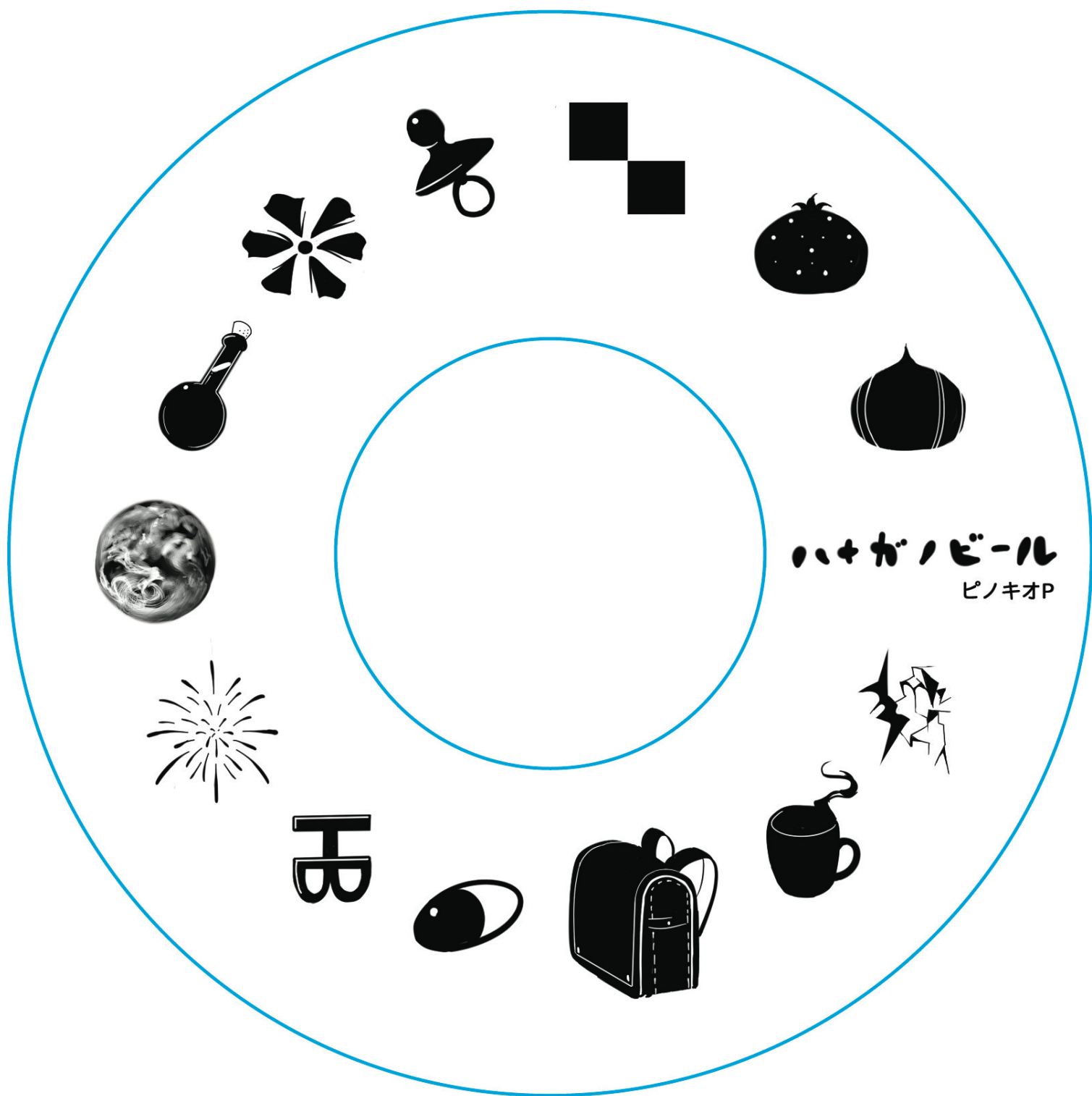


- 1 あかんぼ
- 2 ネガポジ
- 3 宇宙みかん
- 4 玉葱
- 5 カケラ
- 6 Cocoa
- 7 ひとりの帰り道
- 8 キラキラ★カプセル
- 9 HAPPY END BAD END
- 10 Fireworks
- 11 「なんてね。」
- 12 eight hundred
- 13 ハナウタ



09.09.06 PINOKIO P All rights reserved

権利者の許可無く、このCDを賃貸業に使用すること、
このCDに収録されている音を個人的に楽しむ以外の目的で複製すること、
及びネットワークなどを通じて送信できる状態にすることは、
著作権法で禁じられています。



ハカガノビール
ピノキオP

これは伸びる。

ピノキオP

ハナガノビール

- 1 あかんぼ ☆
- 2 ネガポジ ◎
- 3 宇宙みかん ◎
- 4 玉葱 ◎
- 5 カケラ ☆
- 6 Cocoa ◆
- 7 ひとりの帰り道 ◎
- 8 キラキラ★カプセル ◆
- 9 HAPPY END BAD END ☆
- 10 Fireworks ◆
- 11 「なんてね。」 ☆
- 12 eight hundred ◆
- 13 ハナウタ ◎

☆ 新曲

◎ Album version

◆ Album mix